

始良市の考える地方創生。

始良市の現状と未来

始良市市長・笹山義弘氏に聞く。始良市の考える地方創生とは。



KEYPERSON

内田 健一郎 氏 × 笹山 義弘 氏 × 宇都 幸雄 氏

UCHIDA KENICHIRO

SASAYAMA YOSHIHIRO

UTO YUKIO

鹿児島信用金庫 業務執行役員
地域創生・活性化担当

始良市市長

かしん経営大学主任講師
(株)創造経営研究所 代表取締役

宇都 本日は、お忙しいところお時間をいただき、本当にありがとうございます。

この度、始良市のご後援を頂き「かしん経営大学公開講座」を始良市にて開催させて頂くことになりました。その前に市長にお話をお聞きしたくお伺いいたしました。どうぞよろしくお願い致します。

笹山市長 こちらこそどうぞよろしくお願致します。

宇都 まず、はじめにお聞きします。始良市は始良町と加治木町そして蒲生町が合併して始良市となったわけですが、外部の私たちから見ると、まだまだ加治木町と蒲生町というイメージが強く残っているような気がします。現在は始良市としての一体感はどうなんでしょうか。

笹山市長 確かに平成の大合併において、難産のうえ始良市は誕生しました。それぞれの歴史や文化の違いが町の個性を強くしていたと思います。しかしそれぞれの

個性は大事にしながら、始良市としてのまちづくりを進めてきました。おかげさまで今では始良市は人口も増えて、一体感も強くなってきました。

内田 そうですよ。他のほとんどの市町村が人口減の中で、始良市は逆に人口が増えていますよね。

笹山市長 ええ、始良市は鹿児島市と霧島市に隣接しています。ですから例えば、隣の京セラのような大企業等の誘致をして人口を増やすのではなく、鹿児島市と霧島市のベッドタウンを目指しています。



宇都 なるほど、賢明な策ですね。ところで、今、国中で地方創生事業への取り組みが始まっていますが、市長の今回の地方創生事業へのお考えをお聞かせ下さい。

「地方創生」とは「原点」にかえるということ

笹山市長 何と言いましようか。結局「ロボットの卵」みたいなものではないですか。国はいろいろなことを言っていますが、結局原点に返るといふことだと思います。つまり地方創生で玉手箱みたいに何か生まれるというイメージがあ

るようですが、そうではなくて、まちをどうして残していくか、成長させていくかを原点にかえて考えなおすことが地方創生だということなんです。

人口が減っていくまちは、単純に人口を増やそうとする考え方二辺倒ではなく、過疎地を生かして、農業体験や林業体験の場に再生する等です。

宇都 なるほど逆転の発想ですね。

笹山市長 都会にはサラリーマン生活をリタイヤされた方達もたくさんいらつしやるわけですから、そのような方達の場づくりもありますね。

宇都 そういう意味では、今度の地方創生事業は市町村の知恵比べとも言えますね。

笹山市長 当然他の市町村とはライバル関係になりますね。ライバルとして切磋琢磨することは良いことだと思います。そして一方では、国が言っているように連携も必要になります。

宇都 全く同感です。近隣市町村と連携するには連携する市町村同士が長期ビジョンを共有することが必要だと思えます。

笹山市長 そうですね。

宇都 市長、今回初めて始良市で実施する「かしん経営大学公開講座」で提案したいことがあります。聞いて頂けますか？

笹山市長 ええ、もちろんです。

始良市の持つポテンシャルは大きい

宇都 私は、始良市は大きなポテンシャルティー（潜在可能性）を持っていることに気づきました。そのひとつの理由は、市長も先ほどふれられたように、鹿児島県のダントツ第一位の人口都市、鹿児島市と二位の霧島市の結節地であることです。

次に鹿児島空港に近接しているこ



身の丈の 政策を

笹山市長 桜島と錦江湾をまちづくりにもっと生かすということには大賛成です。しかし私の政治信条として「身の丈の政策」というのを大事にしています。

あまり知られていませんが、有機農業に従事している人は鹿児島県で始良市が一番多いのです。日本の食文化が世界的に見直されている今日、始良市の農業と共に食文化の見直しを図り世界に情報発信していきたいと考えています。ですから、始良市の農業従事者の

皆さんには、始良市を有機の里にしたいと言っています。

内田 有機の里づくりは、人口減の中山間地域活性化策になりますね。

笹山市長 ただ、作る前に出口づくりというか、まず販路を確保しなさいと、いつも指導しています。有機の里として安心安全な食材を都会のお店等に提供できるようにしなければ良いのです。

それに始良市は、恵まれた資源がありますので、いろいろなものと組みあわせることによって、創業や第二創業に繋げることができるのです。例えば、食と医療を結び付ければ「食のメディカルシティー」にも

なれるのです。

宇都 さすがですね。市長はもともと経営者でいらっしゃるので、頭が柔らかいですね。

笹山市長 いやいやそんなことはありません。市長（私）はテゲテゲです。皆さんの意見を聞いているだけです。

最も必要なのは わくわくする 大きな夢のある 長期ビジョン

宇都 確かに市長がおっしゃる通り、現実を見据えた身の丈の政策ということにも大いに賛成です。しかし、今の時代に地域の活性化や企業の再生にとって最も必要なことは、正しい世界状況の認識と自己認識に基づく「長期ビジョン」だと考えます。市民や職員がわくわくするような、大きな夢のあるビジョンが、その実現に向かって努力を重ねる力を与えてくれます。

と。これからの国際化時代のまちづくりは空港を除いては考えることはできません。三つめが世界に類を見ない桜島のある錦江湾の沿岸であることです。この三つことから、今回の地方創生に当たり、鹿児島市と霧島市、場合によっては錦江湾沿岸市町村が連携し、それぞれの市町村の特徴を生かしつつ「錦江湾世界文化都市構想」をまちづくりの長期ビジョンとして共有し、連携したらどうかと思っています。



始良市民である ことに自信を持つ ことが大事です

笹山市長 そうですね。それはよくわかります。参考にさせていただけます。これは始良市の人はもともと自信を持つべきなんです。先ほども言いましたが人口は増えていても、犯罪件数は減っています。安心安全な街は、地域力の象徴なのです。

私は加治木町長をしていて、始良市長になったのですが、始良市民に「貴方はなぜ始良市に住んでいるのですか？」とよく聞くことがあります。すると多くの人が「交通が便利だからです」と答えます。始良市に対する愛着心がまだまだ少ないなと感じています。それは始良市の良さをまだ知らないということだろうと思えます。

宇都 始良市民の人達はもともと始良市の本当の素晴らしさを知って、自信を持ってほしいですね。実は「地方の時代」という言葉が



使われ出したのは、確か1978年だったと思いますが、神奈川県の大須賀知事が初めてと記憶しています。あれからすでに40年近くたちました。その間、大分県平松知事の二村一品運動や、熊本県の細川知事の日本一運動が取りざたされましたが、一向に地方の時代は、実現することはありませんでした。ぜひ、今回の地方創生事業を、始良市が全国のモデルとなるような事業にして文字通り地方の時代を築いて下さい。

私は今回の地方創生事業が地方の時代を実現する最後のチャンスだと思っています。その成り立ちや、良し悪しは別として。

笹山市長 始良市は良い風が吹いています。職員をはじめとして、始良の皆さんがきつと頑張ってくれると思います。

宇都 最後になりますが、この度鹿児島信用金庫では、これまで18年間にわたり地域の経営者のための経営塾である「かしん経営大学」を開催してきました。卒業生が県内に約800名を数えます。そして、本年度は、市町村の地方創生事業に貢献すべく始良市をかきりに「かしん経営大学公開講座」を開催することにになりました。どうぞよろしくお願い致します。



笹山市長 金融機関の様々なご支援がぜひ必要ですので、こちらこそどうぞよろしく願いします。ただ、一つの金融機関だけでなく、鹿児島県の全部の銀行に応援をもらいたいと思っています。大いに切磋琢磨しましょう。

内田 鹿児島信用金庫執行役員として、地方創生専任担当を命ぜられておりますので、何でもご協力するつもりでおります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

笹山市長 こちらこそお願い申しあげます。

宇都 本日は本当にありがとうございます。ございました。